

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年11月11日
【四半期会計期間】	第157期第2四半期（自平成27年7月1日至平成27年9月30日）
【会社名】	株式会社巴川製紙所
【英訳名】	TOMOEGAWA CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 井上 善雄
【本店の所在の場所】	東京都中央区京橋一丁目7番1号
【電話番号】	03(3561局)7121番(大代表)
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員CFO経営戦略本部長 山口 正明
【最寄りの連絡場所】	静岡県静岡市駿河区用宗巴町3番1号
【電話番号】	054(256局)4319番
【事務連絡者氏名】	経営戦略本部経理グループマネージャー 長谷川 俊樹
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第156期 第2四半期 連結累計期間	第157期 第2四半期 連結累計期間	第156期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (百万円)	16,546	16,965	34,114
経常利益 (百万円)	382	133	476
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失() (百万円)	398	4	48
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	419	108	1,277
純資産額 (百万円)	13,452	13,953	14,278
総資産額 (百万円)	40,865	40,039	40,508
1株当たり四半期(当期) 純利益金額又は1株当たり 四半期純損失金額() (円)	7.82	0.08	0.96
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	30.1	31.4	31.8
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	938	288	1,662
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	652	486	1,255
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	605	509	252
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	3,788	2,808	3,411

回次	第156期 第2四半期 連結会計期間	第157期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期純損失金額() (円)	4.91	0.58

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 第156期第2四半期連結累計期間及び第156期における潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4 第157期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 5 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益又は四半期純損失」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失」としております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

（プラスチック材料加工事業）

第1四半期連結会計期間より、日彩控股有限公司及び日彩影像科技(九江)有限公司は重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用関連会社）が判断したものであります。

なお、第1四半期連結累計期間より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）等を適用し、「四半期純利益」を「親会社株主に帰属する四半期純利益」としております。

（1）業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用環境の改善や個人消費の持ち直しなどもあり、緩やかな回復基調をたどりました。一方、世界経済は、中国・アジア地域での景気の減速もあり、依然として不透明な状況が続いています。

このような状況の下、ディスプレイ関連製品の受注減少や洋紙関連などの既存製品の市場縮小による減収があったものの、中国事業に関する子会社2社を新たに連結対象に加えたトナー関連事業と機能紙関連事業が堅調に推移したことに加え、前年同期に比べて円安の恩恵もあったことから、当第2四半期連結累計期間における売上高は、前年同期と比べ419百万円増収の16,965百万円（2.5%増）となりました。

利益面では、前期後半に実施した半導体関連製品の価格対応の影響などから、営業利益は前年同期と比べ76百万円減益の241百万円（24.1%減）となりました。

一方、経常利益は、前年は年間を通じ好調に推移したディスプレイ関連の合併事業が、調整局面に入ったことなどにより持分法による投資損益が大幅に悪化した影響が大きく、248百万円減益の133百万円（65.1%減）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純損益は、取引先との契約解除に伴う損失（38百万円）を特別損失に計上したことなどから4百万円の損失となり、グループ企業再編に伴う持分変動利益（190百万円）を特別利益に計上した前年同期と比べ403百万円の減益となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

プラスチック材料加工事業

プラスチック材料加工事業では、ディスプレイ関連製品の受注減少による減収があったものの、中国事業に関する子会社2社を新たに連結対象に加えたトナー関連事業が堅調に推移したことに加え、前年同期に比べて円安の恩恵もありました。また、利益面では前期後半に実施した半導体関連製品の価格対応の影響などがありました。

この結果、売上高は10,720百万円（対前年同期比4.7%増）となり、セグメント（営業）利益は353百万円（対前年同期比3.4%増）となりました。

製紙・塗工紙関連事業

製紙・塗工紙関連事業では、機能紙関連事業が堅調に推移したものの、洋紙関連などの既存製品の市場が縮小しました。

この結果、売上高は6,206百万円（対前年同期比1.0%減）、セグメント（営業）損失は126百万円となり、対前年同期比で81百万円の減益となりました。

その他の事業

売上高は38百万円（対前年同期比2.2%減）となり、セグメント（営業）利益は3百万円（対前年同期比64.8%減）となりました。

（２）キャッシュ・フローの状況

当第２四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ602百万円減少し、2,808百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第２四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益91百万円に、仕入債務が342百万円減少したものの、減価償却費799百万円の計上に加え、たな卸資産が159百万円減少したことなどから288百万円の増加となり、前年同期と比べ649百万円の減少となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が383百万円あったことなどから486百万円の減少となり、前年同期と比べ165百万円の増加となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入が839百万円あったものの、長期借入金の返済による支出が846百万円あったことに加え、配当金の支払額が257百万円あったことなどから509百万円の減少となり、前年同期と比べ1,115百万円の減少となりました。

（３）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第２四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更はありません。

（４）研究開発活動

当第２四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、555百万円であります。

なお、当第２四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

（５）経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第２四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通しについて重要な変更はありません。

（６）資本の財源及び資金の流動性についての分析

当第２四半期連結会計期間末における資産合計は、40,039百万円で、前連結会計年度末に比べ469百万円の減少となりました。流動資産は20,302百万円で、前連結会計年度末に比べ573百万円の減少となり、その主な要因は製品が増加したものの、現金及び預金が減少したことによるものです。固定資産は19,736百万円で、前連結会計年度末に比べ103百万円の増加となり、その主な要因は償却による有形固定資産の減少があったものの、日彩控股有限公司及び日彩影像科技(九江)有限公司を連結の範囲に含めたことによるものです。

負債合計は、26,086百万円で、前連結会計年度末に比べ144百万円の減少となりました。流動負債は16,779百万円で、前連結会計年度末に比べ58百万円の増加となり、その主な要因は支払手形及び買掛金が減少したものの、１年内返済予定の長期借入金や未払金が増加したことによるものです。固定負債は9,306百万円で、前連結会計年度末に比べ202百万円の減少となり、その主な要因は返済による長期借入金の減少によるものです。なお、当第２四半期会計期間末における有利子負債残高は14,205百万円と、前連結会計年度末に比べ5百万円の減少となりました。

また、純資産は、13,953百万円で、前連結会計年度末に比べ325百万円の減少となりました。

（７）経営者の問題認識と今後の方針について

当第２四半期連結累計期間において、当社グループの経営者の問題認識と今後の方針について重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	51,947,031	51,947,031	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 1,000株
計	51,947,031	51,947,031	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成27年7月1日～ 平成27年9月30日	-	51,947,031	-	2,894	-	3,569

(6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
凸版印刷(株)	東京都台東区台東1-5-1	5,697	10.96
栄紙業(株)	東京都中央区日本橋3-4-11	3,336	6.42
昌栄印刷(株)	大阪府大阪市生野区桃谷1-3-23	3,314	6.37
鈴与(株)	静岡県静岡市清水区入船町11-1	2,494	4.80
三井化学(株)	東京都港区東新橋1-5-2	2,439	4.69
(株)三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	1,979	3.81
三弘(株)	東京都中央区日本橋3-4-11	1,751	3.37
東紙業(株)	東京都中央区日本橋3-4-11	1,736	3.34
巴川製紙取引先持株会	静岡県静岡市駿河区用宗巴町3-1	1,671	3.21
井上 善雄	東京都千代田区	1,525	2.93
計	-	25,944	49.94

(注) 千株未満の端数は切り捨てて表示しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 457,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 51,385,000	51,385	-
単元未満株式	普通株式 105,031	-	1単元(1,000株)未満 の株式
発行済株式総数	51,947,031	-	-
総株主の議決権	-	51,385	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式729株が含まれております。

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名又は 名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(株)巴川製紙所	東京都中央区京橋 1-7-1	457,000	-	457,000	0.87
計	-	457,000	-	457,000	0.87

(注) 株主名簿上当社名義になっている株式は全て実質的に所有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,465	2,862
受取手形及び売掛金	7,379	7,215
製品	6,474	6,583
仕掛品	80	77
原材料及び貯蔵品	1,912	1,894
その他	1,574	1,679
貸倒引当金	11	10
流動資産合計	20,875	20,302
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,829	5,779
機械装置及び運搬具(純額)	4,128	4,348
その他(純額)	4,356	4,529
有形固定資産合計	14,314	14,657
無形固定資産	239	286
投資その他の資産		
その他	2,507	2,480
貸倒引当金	0	15
投資その他の資産合計	5,079	4,792
固定資産合計	19,632	19,736
資産合計	40,508	40,039
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,525	5,160
短期借入金	2,346,520	2,346,526
1年内返済予定の長期借入金	1,666	1,862
未払法人税等	117	105
賞与引当金	402	404
その他	2,488	2,720
流動負債合計	16,720	16,779
固定負債		
長期借入金	6,023	5,816
退職給付に係る負債	2,697	2,751
役員退職慰労引当金	200	182
その他	588	556
固定負債合計	9,509	9,306
負債合計	26,230	26,086

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,894	2,894
資本剰余金	3,582	3,582
利益剰余金	6,249	5,807
自己株式	323	323
株主資本合計	12,403	11,961
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	422	409
繰延ヘッジ損益	6	4
為替換算調整勘定	318	427
退職給付に係る調整累計額	241	219
その他の包括利益累計額合計	493	612
非支配株主持分	1,381	1,379
純資産合計	14,278	13,953
負債純資産合計	40,508	40,039

(2)【四半期連結損益及び包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	16,546	16,965
売上原価	13,708	14,207
売上総利益	2,837	2,758
販売費及び一般管理費	2,518	2,516
営業利益	318	241
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	19	21
受取保険金	17	35
持分法による投資利益	93	-
その他	89	38
営業外収益合計	220	96
営業外費用		
支払利息	93	98
持分法による投資損失	-	51
シンジケートローン手数料	34	4
その他	29	50
営業外費用合計	156	205
経常利益	382	133
特別利益		
持分変動利益	190	-
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	191	0
特別損失		
固定資産除却損	5	3
契約解除に伴う損失	-	38
その他	-	0
特別損失合計	5	42
税金等調整前四半期純利益	568	91
法人税、住民税及び事業税	70	68
法人税等調整額	68	21
法人税等合計	139	46
四半期純利益	428	44
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失()	398	4
非支配株主に帰属する四半期純利益	30	48
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	75	9
繰延ヘッジ損益	6	1
為替換算調整勘定	107	81
退職給付に係る調整額	22	21
持分法適用会社に対する持分相当額	5	30
その他の包括利益合計	9	64
四半期包括利益	419	108
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	396	46
非支配株主に係る四半期包括利益	22	62

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	568	91
減価償却費	747	799
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	24	17
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	28	85
受取利息及び受取配当金	20	22
支払利息	93	98
持分変動損益(は益)	190	-
売上債権の増減額(は増加)	249	122
たな卸資産の増減額(は増加)	412	159
仕入債務の増減額(は減少)	286	342
その他	273	281
小計	1,093	448
利息及び配当金の受取額	21	23
利息の支払額	100	111
法人税等の支払額	98	115
法人税等の還付額	11	47
その他	11	3
営業活動によるキャッシュ・フロー	938	288
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	39	39
定期預金の払戻による収入	39	39
有形固定資産の取得による支出	388	383
関係会社株式の取得による支出	250	-
その他	12	102
投資活動によるキャッシュ・フロー	652	486
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	717	182
長期借入れによる収入	1,239	839
長期借入金の返済による支出	1,222	846
非支配株主からの払込みによる収入	263	-
配当金の支払額	307	257
非支配株主への配当金の支払額	4	4
その他	81	59
財務活動によるキャッシュ・フロー	605	509
現金及び現金同等物に係る換算差額	165	22
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	726	685
現金及び現金同等物の期首残高	3,062	3,411
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	82
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,788	2,808

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、日彩控股有限公司及び日彩影像科技(九江)有限公司は重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2項(4)、連結会計基準第44 - 5項(4)及び事業分離等会計基準第57 - 4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結子会社以外の会社の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
(株)TFC 516百万円	(株)TFC 342百万円

2 有価証券の消費貸借契約

前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
投資その他の資産の「その他」には消費貸借契約により貸し付けている有価証券901百万円が含まれております。なお、当該取引による借入金は流動負債の「短期借入金」に含まれており、その金額は500百万円であります。	投資その他の資産の「その他」には消費貸借契約により貸し付けている有価証券900百万円が含まれております。なお、当該取引による借入金は流動負債の「短期借入金」に含まれており、その金額は500百万円であります。

3 コミットメントライン契約

当社においては運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行5行と貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
当座貸越極度額及び貸出 コミットメントの総額	5,000百万円	5,000百万円
借入実行残高	4,000	4,100
差引額	1,000	900

4 財務制限条項

「3」の契約には下記の財務制限条項等が付されており、特定の条項に抵触した場合、その条項に該当する借入先に対し借入金を一括返済することになっております。

前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
平成27年3月期末日以降の各事業年度の末日における連結貸借対照表に示される純資産の部の金額を、平成26年3月期末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の75%に相当する金額、又は直前の事業年度末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計額の75%に相当する金額のうち、いずれか高いほうの金額以上に維持すること。	同左
平成27年3月期第2四半期以降の各第2四半期会計期間の末日における連結貸借対照表に示される純資産の部の金額を、平成26年3月期第2四半期会計期間の末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の75%に相当する金額、又は直前の事業年度第2四半期会計期間の末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の75%に相当する金額のうち、いずれか高いほうの金額以上に維持すること。	

(四半期連結損益及び包括利益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
給料手当	530百万円	563百万円
賞与引当金繰入額	67	75
退職給付費用	68	78
役員退職慰労引当金繰入額	24	14
減価償却費	38	43
研究開発費	560	555

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
現金及び預金勘定	3,842百万円	2,862百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	54	54
現金及び現金同等物	3,788	2,808

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月22日 取締役会	普通株式	308	6	平成26年3月31日	平成26年6月9日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月22日 取締役会	普通株式	257	5	平成27年3月31日	平成27年6月9日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 財務諸表 計上額 (注)3
	プラスチック 材料加工 事業	製紙・塗工 紙関連事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	10,235	6,271	16,506	39	16,546	-	16,546
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	0	41	42	420	463	463	-
計	10,235	6,313	16,549	460	17,009	463	16,546
セグメント利益 又は損失()	341	45	295	10	306	12	318

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流サービス等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額12百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 財務諸表 計上額 (注)3
	プラスチック 材料加工 事業	製紙・塗工 紙関連事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	10,720	6,206	16,927	38	16,965	-	16,965
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	0	29	30	395	425	425	-
計	10,720	6,236	16,957	433	17,391	425	16,965
セグメント利益 又は損失()	353	126	226	3	230	11	241

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流サービス等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額11百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()	7.82円	0.08円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は 親会社株主に帰属する四半期純損失金額 ()(百万円)	398	4
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損 失金額()(百万円)	398	4
普通株式の期中平均株式数(株)	50,990,660	51,004,788
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1 株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかつ た潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変 動があったものの概要	-	-

- (注) 1 前第2四半期連結累計期間の、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有して
いる潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 2 当第2四半期連結累計期間の、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純
損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月11日

株式会社巴川製紙所
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 滝口 隆弘 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 須山 誠一郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社巴川製紙所の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社巴川製紙所及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。